



## 「青春桜」の成り立ち

「青春桜」は1978年（昭和53年）3月16日、立川文化会館で開催された「3・16」20周年を記念する青年部総会の席上、新女子部歌として発表された。

第一次宗門事件の暗雲が立ちこめ、僧侶らの、学会員に対する一方的な嫌がらせが始まっていたこのころ——池田大作先生は、厳しい冬を耐え、満開の花を咲かせゆく桜に人生をたとえて女子部を激励した。

「嵐に負けるな！」「桜花爛漫の人生を開きゆけ！」と。

この師の励ましにこたえ、「師とともにある青春の誉れと喜び」、そして「どこまでも師とともにありたい」という願いを歌に託そうと、「青春桜」の作成は開始された。

池田先生は、女子部が懸命に作った歌詞に推敲を重ねた。最後には「青春桜」という言葉しか残らなくなるほどであった。そして曲も、何度も聞いては検討を重ねた。

こうして「青春桜」は、文字通り「師弟共戦の歌」「師弟の誓いの歌」として完成をみた。

池田先生は「全国で『青春桜』を歌う合唱祭をやってはどうか」と提案した。

「薫れ命の青春桜」をテーマに、女子部の合唱祭が全国的に開催されると、池田先生は各地の合唱祭にも出席し、女子部の友と一緒に「青春桜」を歌った。

“師とともに誓いの歌を歌った”との女子部の永遠の歴史が厳然と刻まれたのである。

2006年（平成18年）11月、池田先生は女子部の代表に、「青春桜」の歌詞を書きつづった原稿の復刻版を贈り「女子部、婦人部の大発展とともに、学会の新時代は幕を開けた。いよいよ時は来た。

どうか皆さんは仲良く、朗らかに、そしてまっすぐに創価の金の道を進んでいただきたい！」と語った。

「あなたと語りし／あの誓い／いかに忘れじ／この道を／手に手をとりにたる／青春桜」（「青春桜」3番より）  
かけがえのない同志・先輩とともに、そして、誰よりも女子部の成長と幸福を見守り続けている人生の師匠とともに——師弟の永遠の原点を刻む「青春桜」はいま、広布新時代を担う女子部に歌い継がれ、師とともに歩む最高の誓いの歌となっている。

